

## 医学系学府

I	教育の水準	.....	教育 18-2
II	質の向上度	.....	教育 18-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 教育の責任担当者である教授及び准教授のうち、その専門性に応じた資格（医師、臨床検査技師、放射線技師、看護師等）と実地経験を持つ割合は 59.3%となっている。また、専任教員に占める女性教員の割合は 25.6%となっている。
- 平成 23 年度から実施している大学改革活性化制度により、平成 24 年度にヒト疾患モデル研究センター及び応用幹細胞医科学部門の 2 組織を新たに設置している。
- 教育の質向上支援プログラムでは、教育の改善に向けたテーマの取組を支援するとともに、教育・研究支援センターでの研究設備と利用者研修の充実等により、時代に即した教育体制の構築に取り組んでいる。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 講義を夜間等に集約し、研究活動の中断を最小限にすることにより、研究活動時間の確保のほか、医学生命学の研究者として広く最新の研究に接することができるよう配慮している。
- 文部科学省の国公私立大学を通じた大学教育改革の支援事業に採択された「臨床研究活性化のための大学院教育改革」及び「大規模コホートに基づく生活習慣病研究教育」を実施しており、平成 26 年度からコースの再編を行い、臨床研究及び基礎研究の方向性を明確にしている。
- 文部科学省の大学改革推進事業「九州がんプロフェッショナル養成プラン」により、がんの特化した医療人材の養成を目的とした教育を行い、5 年のプログラム終了後は、平成 24 年度に文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの「九州がんプロ養成基盤推進プラン」が採択され、教育目的に沿った人材育成を発展的に継続している。

以上の状況等及び医学系学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 〔判定〕 期待される水準にある

#### 〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度の標準修業年限内修了率は、修士課程は80.0%から95.2%、博士課程は8.3%から43.3%の間を推移している。
- インパクトファクター（IF）10以上の雑誌に発表された学位論文は、平成24年度は9件、平成25年度は3件、平成26年度は7件となっている。
- 平成25年度の学業の達成度や満足度に関する学生へのアンケートでは、「学習目標は達成しているか」について、「達成している」又は「おおむね達成している」と回答した者の割合は81.6%、「九大での学習に満足しているか」について、「満足である」又は「どちらかといえば満足」と回答した者の割合は52.5%となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成26年度の修士課程から博士課程への進学率は、医科学修士課程修了生では57.9%、保健学専攻修了生では10.0%となっている。
- 平成22年度から平成26年度就職希望者の就職決定率は、修士課程修了生では87.0%から100.0%、博士課程修了生では79.3%から98.1%の間を推移している。
- 平成25年度就職先・進学先等の関係者に対する意見聴取では、「専門分野の知識」又は「幅広い教養・知識」等の就職先における現在の能力のすべての項目で、平均83.5%の肯定的な回答を得ている。

以上の状況等及び医学系学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 専門性に応じた資格（医師、臨床検査技師、放射線技師、看護師等）と実地経験を持つ教授及び准教授の割合は 59.3%となっている。また、専任教員に占める女性教員の割合は 25.6%となっている。
- 講義を夜間等に集約し研究活動の中断を最小限にすることにより、研究活動時間の確保のほか、医学生命学の研究者として広く最新の研究に接することができるよう配慮している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- IF10 以上の雑誌に発表された学位論文は、平成 24 年度は 9 件、平成 25 年度は 3 件、平成 26 年度は 7 件となっている。
- 平成 22 年度から平成 26 年度の就職希望者の就職決定率は、修士課程修了生は 87.0%から 100.0%、博士課程修了生は 79.3%から 98.1%の間を推移している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。